

# かみすげたささのおか

令和2年8月21日  
上菅田笹の丘小学校  
学校だより9月号

みんなで  
東京2020  
オリンピック・  
パラリンピックを  
応援しよう。



上菅田笹の丘小学校 学校教育目標  
自分大好き 仲間大好き  
心かがやく上菅田笹の丘小学校



## 子供を見守る粘り強い関わり

共生を支える無償の愛

校長 縣 利一

2週間余りの短い夏休みが終わり、上菅田笹の丘小学校に元気な子供たちが戻ってきました。屈託のない笑顔、喜びあふれる笑い声、元気な挨拶……。学校が活気にあふれています。前期後半を順調にスタートすることができました。「子どもから元気をもらう。」と表現しますが、改めてそのことを実感いたしました。8月17日の朝会において、代表の児童が「授業では進んで手を挙げて発言したい。」とのめあてを発表してくれました。意欲的に学びに向かおうとする子供たちのために、私たち教職員もまた、子供たちの学びを支え見守る責任を実感した次第です。コロナ禍の影響で授業日数が少なくなった分、学習進度が心配されていますが、教員の教材研究の時間を確保し、充実した授業を行うと共に、朝の時間の活用で学習内容が定着するためのドリル学習等を進めていくようにしています。各家庭におきましても、家庭学習の充実へのご協力をお願いいたします。

今年は、8月7日に立秋を迎え暦の上では秋となりました。秋分の日が9月22日なので、この日までの暑い気温を「残暑」と表現します。しかし、残暑という表現では合わないような暑さが続いています。気象庁は最高気温25℃以上が夏日、30℃以上が真夏日、35度以上が猛暑日と定義していますので、今は夏の暑さが残っている「残暑」の秋というよりも、夏真っ盛りの「暑中」が続いているというところでしょうか、暦を変えたくないような暑い毎日です。

このような状況ですから熱中症が心配されます。これは学校と家庭が協力して取り組むべき課題です。学校からは6月12日付でお知らせしました「熱中症の予防について」に従って取り組んでいきますので、引き続き保護者の皆様のご協力をお願いいたします。特にマスクの扱いについては、子供たち自身が着脱できるようにご家庭でもご指導をよろしくお願いいたします。また、是非とも帽子をかぶるようにお願いいたします。日傘を使用するお子さんも見られ、熱中症防止の意識が高まっていると感じます。また、新型コロナ対策については、熱中症防止の配慮をしながら、マスク着用と共に3密を防ぐ手立てを取りながら学習活動を進めております。各家庭におきましては、朝に体温を測り記録していただくと共に、体調不良や発熱等の症状がある場合には登校を控えていただくようお願いいたします。その場合には欠席扱いにはなりませんので、担任にご連絡ください。

熱中症予防と新型コロナ対策には、体力や免疫力を高めることが大切であると言われております。そのためにも「早寝・早起き・朝ご飯」といった規則正しい生活をするのが重要です。学校と家庭が協力をして子供の生活を守っていききたいと思います。よろしくお願いいたします。

ところで、「子どもを守る」ということについて、臨床心理学者 河合隼雄氏は次のように話されています。「子どもをほんとうの意味でしっかり守っていかないと、自分の力が出てこないのだということを、みんなが忘れすぎていると思います。大切なのは子どもを守る心理的な力です。『失敗してもいいから、もっと好きなことをやってみろ。』と少し後ろから見守ってあげることが大切です。『あれをやれ』『これをやれ』と喋っているだけでは子どもは伸びません」

後ろから守ってもらっていると感じる子どもは、不安を意欲に変えて前へ進むことができるでしょう。失敗しても挫折しても、振り返れば自分を受け入れてくれる親や大人たちがいるからです。子どもにとっては、前に進もうとした挑戦そのものに意味があり、大切な学習なのです。ところが、子どもの挑戦に親が介入し「あれをやれ」「これをやれ」と喋ってしまうのは、単なる親の干渉になってしまうそうです。「心理的に見守る」ことは、親にとっては非常に辛く我慢を強いられることです。子どもを守る最大の場は家庭です。その家庭で、家族が生活をともにする中で、理屈ぬきでわがままを言ったり感情をぶつけ合ったりしながらも、共に生きていこうという感情が大切であるのだということです。そうでなければ、「家族」ではなく単なる「同居人」となってしまうのです。コロナ禍という出来事を通して私たちの生き方の見直しを余儀なくされたこの時代だからこそ、子供自身がどう生きるのか、どう学ぶのか、どう生活するのかを考えさせる関わりを大切に背中を支える見守りが必要なのだと思います。